

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 大腿骨近位部骨折患者における入院時の栄養状態が術後1年間の再転倒率・ADL動作能力に及ぼす影響』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 リハビリテーション科 職位・氏名 主任・東 大輝

【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は東邦大学医療センター大橋病院で、大腿骨近位部骨折患者に対して整形外科的治療を実施された患者様の術前の栄養状態と、受傷前身体機能に関する関係性を調査することで、可能な限り再転倒・再骨折の予防を可能にすることを目的とした研究に利用します。

この研究で得られる成果は、患者様に必要な理学療法だけでなく、栄養指導を含めた適切な時期に適切なチーム介入を行うことに繋がり、転倒による再骨折の予防を行うことは、要介護化リスクの低減につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報:病歴、年齢、性別、画像評価(単純 X 線や単純 CT 画像、MRI 画像)、骨折型、骨密度、骨代謝マーカー、血液データ(アルブミン値・総蛋白量)、術後 1 年の再転倒・再骨折の有無、術後 1 年の死亡可否、在宅復帰可否、日常生活動作能力(Barthel Index)、理想体重比とアルブミン値から選出される Geriatric Nutritional Risk Index、アルブミン値と末梢血総リンパ球数から選出される Prognostic Nutritional Index、研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024 年 12 月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当なし

【試料・情報の取得方法】

対象者:2019 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日までに東邦大学医療センター大橋病院において、大腿骨近位部骨折に対して骨接合術・人工骨頭置換術を受け、医師の指示のもと、理学療法を実施した方 計 150 名程

方 法:診療記録(カルテ)からデータを抽出します。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 東 大輝 役職: 主任

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年1月末日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 リハビリテーション科

職位・氏名 主任・東 大輝

電話 03-3468-1251 内線 3060